錦城高校新聞

題字 井口 文章

再刊 第３７８号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2022

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：和太鼓鑑賞、表現祭の模様を詳しくお届けします！

二面：2年生が2日間に渡り修学旅行の代替行事を開催！

彩り豊かに響き渡れ

１・２年和太鼓鑑賞会が開催

２月15日(火)に１、２年生が第１体育館にて、合唱祭の代替行事として和太鼓鑑賞を行った。今号では、鑑賞の様子や、和太鼓奏者・合唱祭実行委員長への取材をお届けする。

（編集部共同取材）

２年生の生徒による和太鼓体験の様子
代表生徒５人が『彩』の方々とセッションを行った

体育館を包み込む残響

２月15日(火)、中止となった合唱祭の代替行事として、第１体育館で１・２年生を対象に和太鼓鑑賞会が開催された。演奏を行ったのは、プロ和太鼓集団『彩』。東京大学のサークルとして結成された男性のみの和太鼓集団で、国内外での演奏活動の他、メディアにも多数出演している。当日は８曲が演奏された他、生徒による演奏体験も行われ、会場全体は手拍子で一体となり盛り上がった。

行事開催へ 先生の熱き思い

２月15日に、１・２年生で合唱祭の代替行事として行われた和太鼓鑑賞会について鈴木和先生に取材した。合唱祭は新型コロナウイルスの感染急拡大により、合唱をすることが危険だと判断し、10月の時点で中止が決定した。その後、１年生は合唱祭が行われる予定だった日に立川市のホールにて和太鼓鑑賞会をすることとなり、２年生は３学期に修学旅行を控えていたため、修学旅行後に代替行事を行う運びとなった。２年生の代替行事が決定したのは３学期に入ってからだそうだ。内容は、実行委員会の中で最も票数を集めた音楽鑑賞に決まった。開催までの期間は短かったため、急な依頼であったが、１年生の鑑賞会でパフォーマンスを行う予定だったプロ和太鼓集団『彩』さんが快く引き受けてくれたという。

１年生は本来、立川市にあるたましんRISURUホールで鑑賞会を行う予定だったが、１年生で感染が拡大したことによる学年閉鎖に伴って中止に。しかし今回、特別措置が図られ、再び校内での開催に至った。そして、１～３時間目まで２年生にパフォーマンスした後、４～６時間目で１年生にパフォーマンスしていただけることになったそうだ。鈴木先生は「合唱祭は昨年度も中止になってしまっていたので、今年こそは何かやりたいと思いで計画してきました」と話した。

生徒は手拍子で演奏を盛り上げる

和太鼓に懸ける想いとは

『彩』の代表である葛西啓之さんに話を伺った。まず、今回の演奏で感じた錦城生の印象について、葛西さんは「礼儀正しく賢いです」と絶賛。「日本にこんなにしっかりした高校生がいたことに驚きました。保護者や先生方の優れた教育と、生徒の皆さんの素直さゆえだと思います」と話した。また、葛西さんにとって太鼓とは「日本人の魂」だという。「古来より日本人が大切にしてきた魂を呼び起こしてくれるものが太鼓である、と感じています」と話す。グローバル化が進み、価値観がどんどん変わっていく世界で「日本人が受け継いできたものを皆の心に燃やす」という想いで太鼓を叩いているという。そんな葛西さんだが、実は元からプロ和太鼓奏者を目指していたわけではなかった。元々教員を目指していたが、広告代理店に就職を決め、さらにそこからプロ和太鼓奏者へ転身したそうだ。この経験から、葛西さんは「人生における出会いは色々なところにあります。自分の可能性を制限せず、何事にも果敢に取り組んでほしいです」とアドバイスした。最後に、錦城生に向けて葛西さんは「貴重な演奏の機会を頂き、ありがとうございました。今回の演奏を通して、和太鼓の魅力を感じてもらえたら嬉しいです」とメッセージを送った。

「貴重な機会をありがとうございました」

演奏を聴いた生徒は

今回の和太鼓鑑賞会について２年生の皆川大和さん（２M）は演奏を鑑賞して「音がよく響いていて圧倒されました」と話す。また、あまり聞かない楽器や和太鼓の種類の多さを知って驚いたという。「太鼓とその他の楽器がマッチしていて感動しました」と皆川さん。「合唱祭がなくなってしまい残念でしたが、こうして代わりの行事が実施できて良かったです」と語った。

中岡宗大さん（１A）は「和太鼓のような楽器はあまり聴く機会がないので、貴重な経験ができて良かったです」と語る。１年生は一度、和太鼓鑑賞会が中止となっており、中岡さんは「もう聴けないと思っていたので『開催する』と聞いた時はとても嬉しかったです」と話す。鑑賞会の雰囲気については「演奏者の皆さんの盛り上げ方がうまく、会場全体が一体になっているような気がしました。演奏も迫力満点で、圧倒されました」と感動した様子で語った。

２年生「表現祭」初の開催

13通りの集大成

「合唱祭」から「表現祭」へ

合唱祭の代替行事として開催された「表現祭」について鈴木和先生に話を聞いた。「実行委員は昨年度できなかった合唱祭を盛り上げたいと思って立候補してくれたので、その思いを形にして達成させてあげたいと思っていました」と語る。表現祭という案は、６月に行われた実行委員会の時点で、開催できない可能性を考えて話し合いをしたときから出ていたという。

実際に動き出したのは３学期に入って、修学旅行の中止が発表されてからだという。実演のみの形にするのは準備期間的に難しいと判断し、実演か映像のどちらかを選ぶ形となったそうだ。また、各クラスを、Zoomでつないで視聴する形での開催となった。

各クラス１年間の成果を

各クラスが５分程度の持ち時間で、作成したオリジナルMVやダンス動画を上映したり、ダンスや歌を実演したりする。その後、58回生と教員全員が１人１票、１番良かったと思うクラスに投票した。集計を待っている間に流された教員ビデオは、２学年の先生がNiziUの『Make you happy』のMVを再現。58回生へのメッセージやダンス練習の様子もあった。結果は金賞がJ組、銀賞はホールでダンスを実演したL組、銅賞がDNAの模型を３つの素材で制作する過程を動画にしたB組となり、先生からの票を１番集めたクラスに贈られる先生特別賞はJ組が受賞した。

クラス全員で団結し、生徒を魅了した

金賞・先生特別賞 J組『超・新宝島』

J組はホールと各クラスを中継してサカナクションの『新宝島』を実演。ダンスはもちろん、曲の演奏、歌唱までJ組のメンバーが行った。ステージ上でバンド演奏がされており、ステージ下では白と黄色のポンポンを使って息の合ったダンスを担当の柴田慶一先生とともに披露。照明のカラーも使い分けており、迫力あるパフォーマンスで画面越しに生徒を魅了した。

「錦城初の試み」を終えて

表現祭が終わり、合唱祭実行委員長の熊木瑛心さん（２J）は「表現祭の開催決定当初の期待値を上回ることができたと思います」と話す。また、自分自身が運営を上手く回せなかったなどの個人的な反省や、当日の回線トラブルなど改善点はまだまだあったと振り返った。代替案を考えていた際に出ていた練習時間や練習場所の確保、似通った催しになるかもしれないという懸念や、みんなの不安の声も多かったというが、準備や当日を終えてみんなから「楽しかった」という声が聞けて安心し、達成感を感じたそうだ。

最後に熊木さんは「来年こそは私たち58回生の知らない錦城の合唱祭で、力強い歌声を響かせてほしいです」と来年の合唱祭への期待で締めくくった。

（甘・烏・千）

春よ、来い

錦城の木々を管理者している事務員の方によると、校門を入って左手に梅の木が３本あるという。既に花を咲かせ、実をつけている部分も見られる。錦城も春を迎えたようだ。 (歩)

錦城生の声が朝日新聞に

１月14日（金）に発行された朝日新聞の投書欄「声」に田川真友歌さん（２M）の『成人って？』というタイトルの投書が掲載された。朝日新聞に投書した理由について「11月13日(土)に錦城で『18歳』の映画の試写会が開催された際、朝日新聞の記者の方から『投書を書きませんか？』という呼びかけがあり、書いてみようと思ったからです」と話す。投書を書いて田川さんは自分が型にはまった考えをしていたことが分かり、新しいことに気づくことができたそうだ。実際に朝日新聞に投書が掲載されて田川さんは「嬉しかったです。以前、母と弟の投書が新聞に載っていたので、自分もこの投書欄に載ってみたいと思っていました」と笑顔。投書を書くコツは自分の中で一貫した考えを持つことだという。最後に錦城生に向けて「若い人が自分の意見を持つことはとても大切なことなので、ぜひ自分自身の意見を持ってほしいです」とメッセージを送った。（桂）

「この投書を通して新しい発見ができました」

むらさき草

あなたは、『ウルトラマンコスモス』を知っているだろうか。この作品は、２００１年から放映されたウルトラマンシリーズにおける21世紀最初の作品である。シリーズとしては珍しく“怪獣との共存”がテーマとなった作品だ▼コスモスのキャッチコピーは「強さと優しさを兼ねそなえたウルトラマン」。基本形態のルナモードは「フルムーンレクト」と呼ばれる怪獣を宥める興奮抑制光線を得意とする。作品中でコスモスは“慈愛の勇者”という位置付けであり、むやみに怪獣を倒すのではなく、保護しようとする描写が多く見られる▼コスモスに変身するのは超常現象を調査し怪獣を保護する組織「チームEYES」の隊員・春野ムサシ。彼もまた、怪獣と共存したいと願う心優しい青年だ▼しかし時として、話し合いの通用しない相手もいる。作品の後半では、こうした相手を倒すべきなのかどうか、ムサシが葛藤する場面が多く見られる。自分の善意によって一部の者を虐げてしまうことは、仕方がないことなのか―果たしてムサシが出した答えは―自分の答えも探しながら見て欲しい▼昨年末、倫理の冬期講習で「正義」について考えることがあった。正義には「功利主義」「自由主義」「直観主義」の３つがあり、それぞれ「全体の幸福度が１番高い状態を目指す」「個人の自由を尊重する」「良心に従って行動する」という立場をとっている。このように、人によって正義への認識は異なる。そして、これからもその種類は増えていくだろう▼今なお人気の高いコスモスだが、その人気の由来はどこにあるのだろうか。前述の通り、正義は人それぞれだ。しかし、全ての正義に共通して言えることは、善意をもって行われているという点である。善意がある限り、それはひとまず正義である。ただ、加えて周囲と調和し共存しようとする「正義」がより受け入れられやすいということは、あるのかもしれない。

（金）

〈快挙！〉将棋部全国５位入賞！

「勝利への執念を持つことが大事です」

１月２８日(金)、２９日(土)に徳島県徳島市で行われた第３０回全国高等学校文化連盟将棋新人戦において、水谷祐太さん(１G)が全国で５位の成績を収めた。実力者が集う全国大会は、厳かな雰囲気だったという。その中で収めた今回の結果について水谷さんは「自分でもまさかこのような成績を収められるとは思いませんでした。１回も勝てないかもしれないという不安もありました」と話す。しかし、実際に賞状と盾をもらった際に実感が湧き、嬉しかったそうだ。水谷さんは予選を２連勝で突破し、決勝トーナメントにシードで進出。最終的に４勝１敗の成績を収めた。ここまで勝ち進むことができた理由は「諦めない気持ちを持ち続けられたこと」と分析する。どの対局でも負けそうになった場面があったというが「諦めたくない、さらに上を目指したい」という気持ちで耐えたことで、不利だった形勢を逆転させ、勝つことができたという。水谷さんは「将棋は技術に加え、強い気持ちを持っている方が有利だと思っています。その気持ちを持ち続けられた点は良かったです」と語る。対局では、自陣の守りを固くし、堅実な戦法で戦ったそうだ。最後に水谷さんは「諦めない気持ちでこれからも将棋を指していき、今後の大会でも上位を狙っていきたいです」と決意を固めた。 （香）

「楽しさ」と「学び」を両立して

2日(水)：修学旅行代替企画

3日(木)：全力省エネミニゲーム

HR委員会が主催する修学旅行の代替行事が2月2日(水)、球技大会実行委員会が主催する代替行事が3日(木)の1～4時間目に行われた。今号では代替行事の様子や盛り上がりをお届けする。（2年生共同取材）

生徒の声を取り入れた行事

「今回の学年レクの内容は、ほとんどが修学旅行中に宿舎で行う予定だったものです」と話したのは担当の渡辺あや先生。もともと宿舎で行う学年レクは、学年を2つに分けてリモートで実施する予定だった。本来は、学年全体でビンゴに加え、お絵描きゲーム、クイズのどちらかを選んで実施するというものだったが、今回はお絵描きゲームの代わりとして、修学旅行の中止が決定したときに、LHRでやりたいと声が挙がった『未成年の主張』が行われた。

「今回は修学旅行の代替行事なので、前半で宮城や福島についての勉強をし、後半では楽しい時間を過ごすことができたと思います」と話した。

クイズ・ビンゴ

3、4時間目に修学旅行学年レク代替企画として、HR委員会主催の『錦城産ビンゴとクイズのレクラッシュ』が行われた。この学年レクで獲得した点数の上位5クラスには、景品が贈られる。5種類の景品は、1位となったクラスから順に景品を選ぶことができる。

最初に行われたのは東北や先生に関するクイズ。各クラス6～7チーム、計80チームに分かれて解答。また、正解したチームだけではなく、面白い解答をしたクラスにも点が入る。解答時間の間にはHR委員のトークが繰り広げられた。各クラスはZoomで接続されているため、他のクラスの解答も見ることができる。特に先生クイズでは、盛り上がりを見せた。

次に1人ひとりにビンゴカードが配られ、ビンゴが行われた。HR委員がビンゴマシンで番号を引き、Zoomの画面越しにその番号を発表。各クラスでビンゴした人数に応じて点数が入る。

『錦城産ビンゴとクイズのレクラッシュ』はポイント制となっており、最終結果は1位がA組、2位がM組、3位がG組となった。獲得した点数の上位5クラスには「だだちゃ豆棒」や「樹氷ロマン」などの東北に関連する景品が贈られた。

ジェスチャーをする生徒と回答する生徒

画面越しに発表される
ビンゴの番号を見つめる

ウルトラクイズの様子
○と答えた生徒が1人となっている

代替行事開催に喜びの声

藤生穂乃花さん（2E）は「先生・錦城クイズで、先生や錦城のことをよく知ることができたので良かったし、面白かったです」と話す。代替行事が開催されるまで、放課後にたくさん残って企画を考えたHR委員や先生方に感謝の気持ちでいっぱいだという藤生さん。「今まで大きな行事ができなかったけれど、その中でも少しでも思い出に残るようなことができて嬉しかったです」と語った。

＊　＊　＊

この日の1・2時間目には『東北~錦城オンライン交流会』～いつか行ってみよう蔵王・松島～」が行われた。この内容の詳細は次号以降にお届けする。

58回生の思い出を

代替行事2日目の開催に至った経緯について、担当の柴田慶一先生に話を聞いた。柴田先生は「秋の球技大会が中止となり、代わりに何かできないかということで、球技大会実行委員、特に本部のみんながアイデアを出して動いてくれました」と話す。また、日程は修学旅行の中止を受けて、本来修学旅行当日だった2月3日(木)に決めたという。当初は球技大会に近いものを行おうと動いていたそうだが、新型コロナウイルス感染者の増加といった社会的状況も考慮して規模を縮小、屋内でのレクになったという。

逆ババ抜き

始めに開催されたのは「逆ババ抜き大会」。名前の通りこの大会はババ抜き最弱を決めるもので、最後までババを持っていた選手が勝者となる。予選はクラス内で行われ、その中で勝った2人が体育館で行われる決勝ラウンドに進むことができる。決勝ラウンドは勝ちあがった選手を4グループに分け、各グループの勝者4人で決勝戦を行った。決勝戦で導入された「シャッフルカード」は選手が1人1回使えるルールで、プレイヤー同士の手札を入れ替えるものだ。優勝した河野夏帆さん（2H）は「普通のババ抜きではあまり負けたことがなかったのですが、優勝できて嬉しいです」と話した。

3日(木)の「逆ババ抜き大会」の
クラス予選の様子

ジェスチャーゲーム

この日2つ目の種目は、クラスごとに行う「ジェスチャーゲーム」。クラスを3つのグループに分け、1グループ2分×2セットで行う。ゲームを行うグループは、ジェスチャー担当、解答者、待機の3つを1問ごとに素早く交代しながら行う。その間、他のグループは声を出さずに観覧する。また、お題はタブレットを使って出題された。お題の内容をグループで協力しながら体を張って表現する様子が見られ、各クラス大きな盛り上がりを見せた。

大喜利

『IPPONグランプリ』はお題に合わせて面白い回答を発表していく大喜利だ。予選は各クラスで6～7班に分かれて行われ、クラスで1番面白かった班が体育館で行われる本戦に出場する。

本戦1stラウンドでは、各クラスの予選を勝ち上がった13チームを2グループに分けて「バスの降車ボタンを7回連打すると何が起こる?」というお題で争われた。ここではA組とD組が勝利し、決勝戦へ勝ち進んだ。2年の副担任の先生と特別審査員の合計9人の先生が審査員を務めた決勝戦のお題は「○○の秋、1位は食欲、2位は芸術。では87位は?」で「アンジェラの秋」と解答したD組が9票中6票を獲得して優勝した。

優勝したD組のメンバー

球技大会実行委員が企画した代替行事は全種目がポイント制で、最終順位は1位がI組、2位がH組、3位がE組となった。

代替行事で感じたこととは

赤坂聖弥さん（2D）は「クラス全体で盛り上がれるような企画が多くて、とても楽しかったです」と話す。企画の中でも、特にジェスチャーゲームが楽しかったという。「クラスメイトのジェスチャーの伝え方がそれぞれの個性が出ていて、意外な一面が見ることができたと思います」と振り返った。

2日間の代替行事を振り返る

HR委員長と球大実行委員長にインタビュー

2日間に渡る代替行事の企画と進行を担当したHR委員会と球技大会実行委員会。それぞれの委員長にこの2日間を振り返ってもらった。

行事の反省を語る

HR委員長の郡司駿斗さん（2L）は「終わったあと、多くなが『楽しかったな』と思える人から『楽しかった』『面白いレクを作ろうと思い、準備した』と言ってもらえたのました」と話す。最後に「HR委員と一緒にこの行事を盛りすぎ」と振り返る。うまくいった点については、時間に余裕がざいました！」と締めた。

ある際に「未成年の主張」を行うことや、ビンゴの回転ペースの調節を挙げた。一方で「声が聞こえにくかったというクラスもあったと聞き、錦城は学年レク開催について「いつもと異なる形での代替行事にオンラインにまだ弱いと思いました」と課題も語る郡司さん。開催にあたって心がけたく終えることができたので良ことについては「修学旅行とかったです」と振り返る。

前例がない新しい挑戦を

球技大会実行委員長の小手川悠大さん（2D）は2年生のいう大きなイベントの代替行事ということで、学年のみん大会を実施しようと計画していたが、コロナ感染拡大の影響で、怪我をしたときの対応が遅れてしまうことを考慮し、クラス対抗学年レクに変更となった。同じような行事を開催したという前例がない新しい挑戦だったのでとても苦労したという。「次の球技大会の実施に向けてみんなを引っ張って行けるように頑張ります」と意気込んだ。（麦・甘）

球技大会実行委員は、3学期が始まったと同時に代替行事のために動き出した。初めは、クラス対抗バレーボール大会を実施しようと計画していたが、コロナ感染拡大の影響で、怪我をしたときの対応が遅れてしまうことを考慮し、クラス対抗学年レクに変更となった。同じような行事を開催したという前例がない新しい挑戦だったのでとても苦労したという。「次の球技大会の実施に向けてみんなを引っ張って行けるように頑張ります」と意気込んだ。（麦・甘）

「思い出に残る行事に
なりました」

「初めて行う行事だった
ので準備が大変でした」

仙台の味！牛タン弁当を実食

2月2日(水)の昼食は、仙台名物「牛タン」の弁当が用意された。これは、修学旅行の中止を受け、HR委員会で「行くはずだった東北の味覚を味わいたい」という意見が挙がり決まったものだ。また、牛タン弁当が食べられない生徒には他の種類の弁当が用意された。

この「仙臺名物牛たん弁当」は、温かい状態で食べることができる仕組みになっており、黄色い紐を引くと発熱して容器が温められ、そこから5～6分ほど待つと食べることができるようになっている。蓋を開けると、宮城県産「ひとめぼれ」の麦めしの上に分厚い牛タンが7枚盛り付けられており、ボリューム満点。塩味のアクセントも効いていて食べ応えがあった。また、万来漬けと花人参煮も添えられていてさっぱりといただくことができた。宮城県を訪れた際は是非食べたい。（麦）

「仙臺名物牛たん弁当」
開封後の様子

牛タン弁当を食べられない人
に配られた弁当の１つ

生徒会動静

1. 14～3. 11

中央委員会随時活動中
1月14日(金)～2月21日(月)　2年合唱祭実行委員会
1月15日(土)～2月2日(水)　2年HR委員会
1月26日(水)～2月3日(木)　2年球技大会実行委員会
2月2日(水)体育学芸委員会

お詫び
前号表面の発行日に誤りがありました。
誤：1月14日木曜日
正：1月14日金曜日